

ISO/TC138 (流体輸送用プラスチック管・継手及びバルブ) 年次国際会議

はじめに

ISO/TC138は、流体輸送用プラスチック管・継手及びバルブに関する規格の制定・改正を担当している。2018年1月末時点で、合計313の規格が発行され、65の規格開発プロジェクトが進行中である。TC138は、日本が幹事国となってイニシアチブをとって活動中であり、正式メンバー(Pメンバー)は39カ国、オブザーバーメンバー(Oメンバー)は35カ国と、規模的にはISOの中でも比較的大きなTCである。

2. TC138の活動状況

TC138傘下には8個のSCがあり、TC及び各SCの傘下には、各々WGなどの作業グループが存在し、全部で30の作業グループがある。SC1～SC7は、管の用途、試験方法、材料、周辺器具などに区分され、SC8は2013年に新たに設立された、配管系の更生を扱うSCである。以下にその構成を示す。

セクション	名称
TC138 (日本)	流体輸送用プラスチック管・継手及びバルブ類
WG8*	熱可塑性プラスチックパイプの基本寸法特性
SC1 (フランス)	下水、排水、雨水用プラスチック管・継手 (農業用を含む)
SC2 (スイス)	給水用プラスチック管・継手
SC3 (イタリア)	工業用プラスチック管・継手
SC4 (オランダ)	ガス供給用プラスチック管・継手
SC5 (オランダ)	一般特性試験方法と仕様
SC6 (オーストリア)	強化プラスチック管・継手
SC7 (イタリア)	プラスチック管・継手及びバルブと付属品の一般特性
SC8 (日本)	配管系の更生

()内は幹事国。*WG8はTC直下のWG

TC138では、各SC、WGが、それぞれの専門分野で規格を開発しており、2017年には、合計14件の新規の規格が発行された。また、TC138における国際投票は、規格見直し及びコミティー内投票を除いた、規格開発のための投票数が、2017年は52件であった。

3. 今年度のTC138年次国際会議

TC138の年次国際会議は、2017年10月9日(月)から10月13日(金)の期間に、スイスのゾロトゥルン市において、TC138全体会議、TC138諮問会議、SC6を除く全てのSC会議及び、各SC傘下の10のWG会議が開催された。SC6会議およびその傘下のWG会議は、別途2017年12月にオーストリアにて開催された。今回のスイスにおける会議の出席者は、29カ国から、計110名であ

った。このうち、日本からの参加者は13名であり、年次国際会議の参加者数としては、以前に日本以外で開催されたTC138年次国際会議の場合と同じレベルである。各SCおよびWGの会議では、各々の分野のエキスパートが集結し、主として規格開発に関する討議と決議を実施した。TC138の諮問会議および全体会議は、TC138の幹事国である日本が全体を取りまとめ、各国の代表が参集して討議を実施した。最終日(10月13日)に開催されたTC138全体会議では、各SC会議での討議内容およびSC決議事項の報告、TC138としての各種決議事項の討議が実施され、合計3つの決議事項が承認された。

4. トピックス

1) TC138/SC3/WG8の設立

日本提案の「耐圧ポリエチレン管システム」の規格開発が、新規プロジェクトとして承認され、新規WGの設立と、そのコンビナーに時吉充亮氏が任命されることが決議された。

2) TC138議長任期の延長

TC138議長の藤井重樹氏の議長任期が、2017年末で終了予定であったが、さらに任期を3年延長し、2020年末までとすることを、TC138として支持することとなった。本件は、その後、ISOの技術管理評議会(TMB)にて承認された。

3) TC138戦略的ビジネスプランの策定

2004年以来、長らく見直しされていなかった戦略的ビジネスプランを、日本主導で抜本的に見直し、最終案がTC138全体会議にて承認された。

5. 今後のTC138年次国際会議の開催予定

2018年のTC138年次国際会議は、2018年10月15日(月)～19日(金)に、中国の杭州(Hangzhou)で開催の予定である。2019年は、欧州内での開催となる予定であるが、開催国は、現在のところ未定である。

(以上)